

- 第1章 副首都の基本的な考え方
 第2章 副首都・大阪の確立、発展に向けた戦略
 第3章 その先にあるもの～副首都として発展する未来の大阪～

今後の検討について

平成28年度内に予定している「中長期的な取組み方向」のとりまとめに向けて、今回の「中間整理案」で示した「機能面」「制度面」「経済成長面」のそれぞれについて、具体的な取組み方向を検討していく。

第1章 副首都の基本的な考え方

1. なぜ副首都が日本に必要か

(1) わが国の現状 ～東京一極集中と日本の存在感の低下～

わが国では、戦後の高度成長期から今日まで一貫して東京一極集中が進む。世界では、アジアを中心に新興国が台頭、日本の存在感は低下。政治・行政の面でも依然として東京が中心。中央集権体制が強い。

(2) 副首都の必要性

国全体の成長をけん引する、国際競争力を持つ複数の拠点創出が必要
 首都・東京の負荷を軽減し、想定外の大災害にも対応しうる国土の強靱化が必要
 地域の自己決定・自己責任に基づく分権型の仕組みへの転換を先導する取組みが必要

2. 副首都・大阪がめざすもの

『大阪が変わる。大阪から日本を変える。
大阪から世界へ発信する。』

大阪自らが、本来のポテンシャルを発揮し、首都・東京とともに、他の大都市に先行するトップランナーへと変貌を遂げる。そして、東京を頂点とするピラミッド型の国土構造・社会構造・価値観を大きく転換し、わが国が抱える社会問題を解決する先導役を果たすため、**東京とは異なる個性・新たな価値観をもって、世界で存在感を発揮する「東西二極の一極」として、平時にも非常時にも日本の未来を支え、けん引する成長エンジンの役割を果たす。**

京都や神戸など、独自の個性を有する都市と一体的に都市圏を構成していることは大阪の強みであり、大阪都市圏は世界有数の人口集積地域でもある。副首都・大阪の実現に向けて、大阪だけでなく、副首都圏として京阪神や関西圏までも視野に入れた取組みを進める。

3. 副首都・大阪が果たすべき役割

(1) 「西日本の首都」(分都)として、中枢性・拠点性を高める。

大阪は政治・行政・経済・金融・都市インフラ等が東京に次いで集積する西日本随一の都市。隣接府県を含めた関西圏として、豊かな経済、都市基盤、歴史・文化を有している。大阪がさらに中枢性・拠点性を高め、西日本経済の中核都市、西日本のワンストップセンターとしての役割を広げることは、国全体の総合力と機動性(スピード感)の向上につながる。地域主権、多極分散型社会の先導役を果たすとともに、東京と並ぶわが国の成長エンジンとして経済中枢機能を高めることが必要。

(2) 「首都機能のバックアップ」(重都)として、平時を含めた代替機能を備える。

わが国として、災害リスクを低減させることは、万一の危機への備えであり、世界から信頼を得て、投資や交流の加速を図る上で重要。大阪はわが国第二の都市であり、関西圏でみれば、首都圏に匹敵する厚みのあるストック。首都機能の麻痺により日本全体が機能不全に陥らないよう、バックアップ体制の整備が不可欠。東京との同時被害の恐れが少ない大阪・関西をバックアップ拠点として、平時にも、非常時にも日本を支える体制を整えることが必要。

(3) 「アジアの主要都市」として、東京とは異なる個性・新たな価値を発信する。

大阪は輸出入や人の流れなどでアジアとのつながりが深い。また、ライフサイエンスなど、強みを持つ分野で世界的な地位を確立すべく集中的に取組みを進めている。アジアの重要性が高まる中で、イノベーションにおいてアジアを代表する国際的な拠点性を発揮できれば、日本の存在感の向上にも寄与する。大阪・関西が、東京とは異なる個性・新たな価値を創造・発信し、アジアの主要都市としての地位を確立することにより、わが国におけるアジアのゲートウェイの役割を果たすことが必要。

(4) 「民都」として、民の力を最大限に活かす都市を実現する。

わが国において、NPOや社会的企業など新たな公共の担い手の増加、CSR(企業の社会的責任)への関心が進む一方、世界では、寄付や投資等を通じた公益活動が、社会的課題解決の第三の道として新たな時代の潮流に。大阪では、都市発展の歴史において民の力が大きな役割を果たしてきた。今日も、特区制度やコンセッションなど新たな手法の導入により、民間の活力を発揮できる環境づくりを進めている。官の発想を超える民間のダイナミズムを社会の中心に据え、営利・非営利活動を最大限に活かせる環境づくりを進め、「民」主役の社会づくりを大阪から発信することが必要。

1. 戦略の考え方

第1章で見てきたように、大阪は、首都機能のバックアップや経済成長のけん引役を果たす上で、既に一定のポテンシャルを有しているが、大阪が、副首都として、首都・東京とともに、他の大都市に先行するトップランナーと認められる存在となるため、下記のとおり、戦略的に取組みを進めていく。

大阪のポテンシャルを踏まえ、大阪自らが副首都に必要な「機能面」「制度面」での取組みを進めることにより、2020年頃を目途に、副首都としての基盤を整える。この自らの取組みを推進力として、副首都化の取組みを支援する仕組みを国に働きかけ、副首都の確立を図る。

並行して、世界で存在感を発揮する東西二極の一極、日本の未来を支え、けん引する成長エンジンとなる「副首都」として発展を遂げるためには、グローバルな競争力を向上させることが必要。そのため、副首都圏となる京阪神や関西全域までも視野に入れつつ、「経済成長面」での取組みを進めていく。

副首都として必要な機能を整える（機能面） 2-1. 参照

国際競争力や国土強靱化の面で、既に一定のポテンシャルを有しているが、2020年頃を目途に、ハード（空港・港湾・交通など）・ソフト（特区など）の両面において機能の充実に向けた取組みを進め、国内の他の大都市よりも副首都に必要な機能が充実していること、非常時には首都の機能を担う能力もあることを明らかにする。

副首都として必要な制度を整える（制度面） 2-2. 参照

2020年頃を目途に、副首都にふさわしい新たな大都市制度への改革などを行うとともに、できるだけ早期に、国が副首都の必要性を認識し、その取組みを支援する仕組みが実現されるよう働きかけを行う。

持続的な経済成長を実現（経済成長面） 2-3. 参照

機能面・制度面の基盤整備と並行して、副首都圏となる京阪神や関西全域までも視野に入れつつ「経済成長面」での取組みを進め、イノベーションの創出や都市ブランドの確立を通じてグローバルな競争力を向上させることにより、「副首都」として発展を遂げ、世界で存在感を発揮する。

副首都・大阪の確立

西日本の首都

首都機能のバックアップ

アジアの主要都市

民都

副首都・大阪としての発展

副首都・大阪の未来像（第3章）

<世界の中で>
世界が目指す産業・文化・サイエンスの拠点

<日本の中で>
スーパーメガリージョンの西の核

<住民にとって>
豊かで利便性の高い都市生活

2-1. 機能面の取組み

【ハード面】

都市インフラの充実

高速道路ネットワークの充実、公共交通戦略の推進
国際空港機能の強化
港湾の国際競争力強化と防災機能の強化

基盤的な公共機能の高度化

安全・危機管理機能の強化
生活インフラの最適化
公衆衛生環境の充実

【ソフト面】

規制改革や特区による環境整備

関西圏国家戦略特区の活用
関西イノベーション国際戦略総合特区の活用
産業支援・研究開発体制の充実
大阪産業技術研究所（仮称）の創設 / スーパー公設試
企業支援体制強化に向けた検討

人材育成環境の充実

府立大学と市立大学の統合
公設民営学校（国際バカロレア等）の設置

文化創造・情報発信の基盤形成

大阪観光局等の充実・強化
府市連携によるイベントの推進

2-2. 制度面の取組み

【大都市制度の改革】

政令指定都市における総合区制度
特別区制度

【基礎自治機能の充実、広域機能の充実】

自主的な市町村合併や市町村間の広域連携
国からの事務・権限移譲 など

【国機関の移転等の働きかけ】

既存国機関の機能強化や東西での二重化
移転や新設 など

【副首都化の取組みを支援する仕組みの働きかけ】

国全体の成長をけん引する、国際競争力を持つ複数の拠点創出が必要などの観点から、副首都化の取組みを支援していくための仕組みの国への働きかけに向け、検討。

2-3. 経済成長面の取組み

【産業・技術力】健康・長寿を基軸とした新たな価値の創出

世界トップクラスのライフサイエンスクラスター形成

健都における健康・医療拠点形成
再生医療等の国際拠点化 など

ものづくりの基盤を活かしたイノベーション促進

ライフデザイン・イノベーションの拠点形成
IoT、AI、ロボット技術、ビッグデータの活用 など

【資本金力】世界水準の都市ブランドの確立

世界に誇れる都市空間の創出

うめきた2期や健都など新たなまちづくり
淀川左岸線の事業着手、なにわ筋線の事業化 など

世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市の確立

大阪観光局の日本版DMO化による機能強化
IR立地促進（法整備が前提） など

【人材力】内外から多様なプレーヤーが集い、活躍する場の創出

多様な人材が活躍できるオープンでチャレンジングな環境整備

グローバル人材の育成や外国人高度人材活用
大学や経済界との連携による人材育成 など

民間活動促進の仕組みづくり

フィランソロビーの促進、非営利セクターの活性化
民間活動を促進するための規制改革 など

「西日本の首都」「首都機能のバックアップ」「アジアの主要都市」「民都」の4つの役割を果たす副首都・大阪は、グローバル社会の中で、日本の成長、世界の課題解決に貢献しつつ、住民が豊かで、利便性の高い都市生活を実現。

現在誘致を進めている2025年の万博は、イノベーションと市民の参画を通じた社会の変容を世界に発信するまたとない機会となるものであり、副首都・大阪の発展を加速する起爆剤として活用する。

副首都・大阪の未来像

世界の中で 世界が注目する産業・文化・サイエンスの拠点

大阪・関西の産業、文化、サイエンスの幅広く厚みのあるポテンシャルが花開き、世界中から企業や人材を惹きつけるブランド力を発揮するとともに、健康・長寿分野のみならず、世界的な課題解決に寄与する課題解決最先端都市として、グローバルな都市間競争に打ち勝つ。

日本の中で スーパーメガリージョンの西の核

リニア中央新幹線の大阪開業によって形成される世界最大のスーパーメガリージョンの中で、大阪を中心とする副首都圏は独自の経済、文化を発展させ、世界に向けたわが国の西の玄関として東京と並び立つ存在感を発揮する。

住民にとって 豊かで、利便性の高い都市生活

世界最先端のイノベーションの成果によって、健康長寿の実現をはじめとする社会の様々な課題解決を図る。また、持続的な経済成長を図るとともに、民のダイナミズムを活かして、その果実によって安全安心の確保、豊かで利便性の高い生活環境を実現する。

万博について

副首都・大阪の発展を加速する起爆剤として「万博」を活用

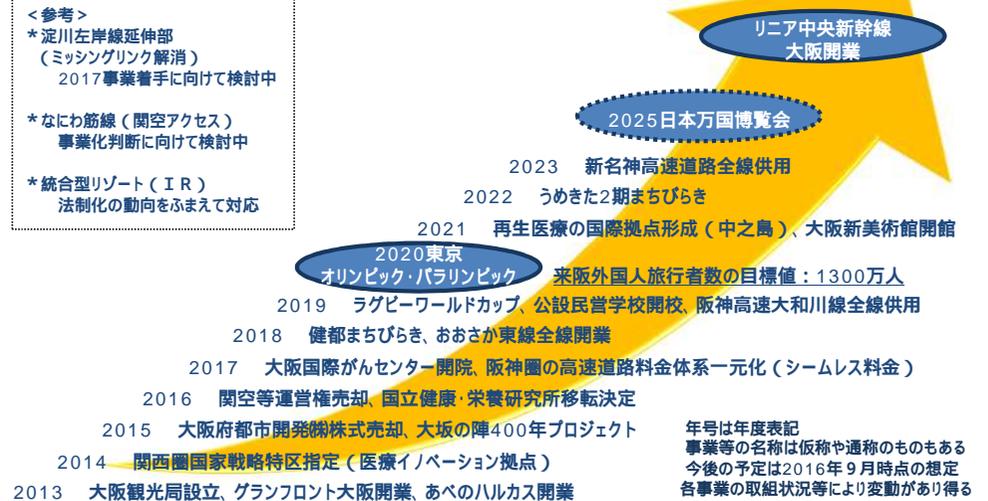
- ・イノベーションの創出
- ・インフラ整備の促進
- ・世界への発信、世界との交流

万博のレガシーを継承・発展させ、最先端のイノベーションと民の力の発揮で、日本・世界の未来を支え、けん引する副首都として大きく発展

2025 日本万国博覧会 <テーマ 人類の健康・長寿への挑戦>

開催前の「知の創造」、開催時の「知の結集」、開催後の「理念の継承」で、世界的規模で「健康への挑戦」を誘発

参考 大阪の主な動き（構想段階等を含む）



参考 圏域のイメージ（主な項目）

